



目標は『小学校入学前までに発音を直す！』こと

年中児としお(仮名)さんの母親

息子が、年少の頃から「お」の段の発音が全てはっきり発音できず、「ん」のように聞こえることが気になっていました。

年中の個人面談で担任の先生からも指摘された為、最初は、公的幼児相談指導機関に相談し通うことに。しかし、月1から2回を4か月通っても直らず、こちら（親子ことばの相談室）を紹介されました。

親子ことばの相談室での初回面接の結果のお話で、「お」の段の発音の他、「ら」行もハッキリ言えていないことを教えていただきました。そして、「お」の段の改善については、間違っただ指導をされた為間違っただ癖がしっかりついてしまっている、直すのに時間がかかる、まっさらな状態で来ていればあっという間に治ったのに！との先生の一言が…！

指導を終えた今、その言葉が実感できています。前のところで指導を受けていない「ラ行」があっという間に正しい発音を習得したのに対し、間違っただ指導を受けていた「お」の段の発音を修正するには時間がかかったからです。年中の1月に通室を開始し、最初は週1回でしたが、なかなか「お」の間違った癖が抜けず、5月の下旬より週2回に、6月下旬より週3回にした後はスムーズに進みました。

10月の就学時健診時は、先生のアドバイスのもと、相談室に通っていることを伝えずに検診を受けたのですが、なんと何の指摘も受けませんでした！ 本当に嬉しかったです。

先生は、間違っただ癖を抜くために、変な音のまねっこと称して日本語にない色々な音を息子に発音させ、その中に正しい「オ」の音も入れる。最初は本人がそれを「お」だと気付かれないようにする。

「オ」の音が言えるようになったら、それが正しい「お」だと教えるプロセスで指導してくださいました。なるほど〜とすごく納得いくものでした。

また、正しい音を習得した後の『今まで自分が正しいと思っていた発音が間違っていると自分を否定する』ことが必要ということも初めて気づきました。

先生は、宝さがしゲームやスゴロクを用いて、その最中も面白く、かしこまらずに遊びとして指導を進めて下さるので、息子はとても楽しそうでした。通室回数を重ねるごとに本人の中で先生への信頼ができていようで、時にある厳しい指導？も、最初の頃は家に帰ってからも引きずっていましたが、途中からはそのような事もなく、毎回通室後は、今日はこんな事をしたんだよと嬉しそうに話してくれました。

私としましても、待合室のテレビに指導の様子が映るので、進歩の具合などわかりやすかったです。また、こちらが疑問に思うこと、気になることもその都度先生が詳しく答えて下さるので不安なく通室できました。

初回面接時目標としていたのは『小学校入学前までに発音を直す』でしたが、週3回通室できたおかげで、就学時健診にも間に合うことができました。